

No	主な取組事業名	事業概要	実施実績	実施実績 (第2次ビジョン掲載値)	平成31(2019)年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
1	芸術士派遣事業	芸術士が本市内の公私立の保育所・こども園、公立幼稚園を分担し、日々の保育・教育の中で保育士等と連携しながら、子どもたちと造形活動や身体表現等、様々な表現活動を行います。 芸術士は、子どもたちの無限の可能性を信じ、子どもたちの感性と創造力を最大限に引き出す手助けをし、子どもたちと社会をつなぐ架け橋として子どもたちの創造力の育成に努めています。	派遣箇所数	平成25年度 27か所 平成26年度 35か所 平成27年度 40か所 平成28年度 40か所 (平成29年度 43か所)	平成21年から実施している事業であるが、今後も、芸術士を保育所等へ派遣を行い、それぞれの芸術分野を生かしながら、子どもが持っている感性や創造力を伸ばしていけるよう導くとともに、指導方法の共有化や人材の確保に努める。	継続	こども園運営課			
2	0才からのコンサート	0歳から3歳くらいまでの子どもとその保護者(妊婦を含む)を対象に、親子で一緒に楽しめるクラシック・コンサートの鑑賞の機会を提供し、乳幼児をもつ保護者へのひとときの安らげる時間を提供するほか、乳幼児には幼い頃から音楽に触れる機会を提供し、音楽文化の創造に関心を深めることを目的に実施します。	観客数	平成25年度 実績なし 平成26年度 463人 平成27年度 602人 平成28年度 559人 (平成29年度 641人)	生の音楽鑑賞機会から遠ざかりがちな子育て世帯を対象とするこのコンサートは、来場者アンケートで多くの方から満足したとの回答を得ているほか、募集開始早々に定員に達するなど人気が高いことから、引き続きコンサートの開催を継続し、より多くの市民が音楽に触れる機会を提供する。今後の開催に当たっては、市民の利便性等も踏まえ、様々な会場を検討する。	継続	文化芸術振興課			
3	ものづくりふれあい教室事業	小・中学生を対象に、ものづくりにチャレンジしながら、文化の創造に関心を深め、ものづくりの大切さを体験する機会を提供します。 今後は、工芸の視点も取り入れ、子どもたちに日本の伝統文化の魅力も伝えていきます。	参加数	平成25年度 829人 平成26年度 861人 平成27年度 1,223人 平成28年度 1,025人 (平成29年度参加数 651人)	引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。	継続	文化芸術振興課			
4	学校巡回芸術教室・能楽教室事業	小・中学生の情操教育の一助とし、健全育成に資するため、学校巡回形式で、生の優良な芸術や古典芸能を鑑賞し、体験する機会を提供します。 能楽、歌舞伎等の伝統芸能を身近に鑑賞、体験できる機会の提供(ホール公演、薪能等)についても検討していきます。	【学校巡回芸術教室】参加者数	平成25年度 8,360人 平成26年度 7,097人 平成27年度 12,283人 平成28年度 9,876人 平成29年度 7,983人	引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。	継続	文化芸術振興課			
			【能楽教室事業】参加者数	平成25年度 2,172人 平成26年度 2,965人 平成27年度 1,555人 平成28年度 3,617人 平成29年度 3,243人	引き続き事業を継続し、情操教育の一環として役立てる。	継続	文化芸術振興課			
5	劇団四季ミュージカル「こころの劇場」	高松市において実施される劇団四季「こころの劇場」ミュージカル公演について、本市並びに瀬戸・高松広域連携中核都市圏域内の児童(小学6年生)を招待します。	鑑賞者数	【観客数/回数】 平成25年度 4,985人/1公演6回 平成26年度 5,323人/1公演6回 平成27年度 5,362人/1公演6回 平成28年度 5,303人/1公演5回 (平成29年度 4,997人/1公演5回)	引き続き、舞台劇の鑑賞をととして、児童の情操を涵養することを目的に事業を継続実施する。	継続	文化芸術振興課	学校教育課	(主管課) ホールの手配、ホール使用料の支出 (関係課) 市内の各学校との連絡、参加者取りまとめ 各学校への事前説明及び公演当日の運営は共同で実施する。	
6	地域密着型トップスポーツチームの活用	カマタマーレ讃岐等、4つの地域密着型トップスポーツチームを活用し、学校訪問や試合への無料招待等、子どもたちに直接選手等に触れ合う機会を提供することで、子どもたちの向上心や創造力の育成を図ります。 平成29年度からは、香川ファイブアローズの選手が施設(市内幼稚園・保育園、小・中学校など)を訪問し、交流を深めることで、広く市民にチームをPRし、ファン層の拡大や青少年の健全育成等を図ることを目的として、新たに「ホームタウン推進事業」を実施しています。さらに、30年度からは、カマタマーレ讃岐を本事業の対象とするなど、今後も、香川県やトップスポーツチームと連携を図りながら、様々な機会を通じ、より多くの子どもたちにトップスポーツチームの選手等と触れ合える機会を提供していきます。	教室等開催回数	平成25年度 15回 平成26年度 11回 平成27年度 10回 平成28年度 7回 (平成29年度 65回)	地域密着型トップスポーツチームを活用し、引き続き、幼稚園・学校等への訪問や高松市民応援デー等における試合への無料招待などを実施していく。また、今後においても、子どもたちの向上心や創造力の育成を図っていくため、県や地域密着型トップスポーツチームと連携を図りながら、様々な手段を通じ、一人でも多くの子どもたちに選手等と触れ合える機会を提供していく。	継続	スポーツ振興課	観光交流課	高松市民応援デーにおけるアウェイサポーターへの高松市観光PR(ノベルティ、讃岐うどんの配布)	
7	高松市美術館こどもアートスペース	平成28年3月リニューアルに合わせて、高松市美術館内に「こどもアートスペース」を開設しました。「ふらっとアート」では気軽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供し、未就学児を始め様々な世代等に親しまれる教育普及プログラムを展開します。	子ども対象イベント・講座参加数	平成27年度 537人 平成28年度 1,230人 (平成29年度 1,913人)	「こどもアートスペース」を活用し、未就学児はじめ様々な世代に親しまれる教育普及プログラムを展開していく。特に「ふらっとアート」では気軽に制作を楽しめるプログラムをシーズン毎に企画提供し、幅広い世代に楽しんでいただく予定。また、子ども向けの美術図書や絵本を自由に閲覧していただく。	継続	美術館美術課			

No	主な取組事業名	事業概要	実施実績	実施実績 (第2次ビジョン掲載値)	平成31(2019)年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
8	夏休み親子探検隊リーフレット制作事業	各課が夏休み期間中に小学生の親子を対象として開催する講座をまとめたリーフレットを作成し、市内の全小学生へ配布する。	掲載事業数	平成26年度 9 平成27年度 54 平成28年度 82 (平成29年度 50) (平成30年度 91)	掲載講座数及び内容を精査し、こどもの多様な興味関心に応えることが出来るよう内容を充実させたい。	継続	産業振興課		農林水産課、文化財課、市場業務課、人権啓発課、危機管理課、政策課、消費生活センター、消防防災課、総務局総務課、環境保全推進課、保健体育課、生活衛生課、こども未来館、平和記念館、香南歴史民俗郷土館、讃岐国分寺跡資料館、石の民俗資料館、高松市埋蔵文化財センター、歴史資料館、中央図書館、南部クリーンセンター、生涯学習センター、高松デルサ	インフォギャラリーにて全課ヘリーフレットへ掲載希望を照会し掲載する。
9	こども未来館わくわく体験事業	子どもを中心とした幅広い世代の人々の交流、子育てに係る支援並びに学習及び体験活動の場を提供することにより、子どもの夢や想像力を育むとともに、健やかな成長に資するため、遊びや科学、アートなどの体験活動を提供するイベントプログラムや親子で参加できる体験イベントなどの様々な魅力ある事業の提供に努めています。	開館記念事業としての実績：企画事業入館者数 平成29年度～こども未来館わくわく体験事業参加者数	平成28年度 6,694人 (平成29年度 4,833人)	こども未来館わくわく体験事業に参加した人のアンケート集計結果や高松市こども未来館運営協議会の意見を検討して、魅力ある事業の提供をする。	継続	こども未来館			
10	子ども・子育て支援事業	みんなのひろばとプレイルームを子どもと保護者の居場所として提供するとともに、子ども・子育ての相談に対応し、子どもと親がともに育ち合う子育て支援機能とふれあい・交流による多世代交流機能を果たすことを目的として実施します。	みんなのひろば・プレイルーム利用者数	平成28年度 35,082人 (平成29年度 76,597人)	来館者アンケートや高松市こども未来館運営協議会の意見を検討して、子どもと保護者のふれあいの場となるよう居場所提供事業をする。	継続	こども未来館	子育て支援課	地域子育て支援コーディネート事業により、毎月1回コーディネーターが子ども・子育ての相談対応をしている。	
11	こども未来館学習体験事業	市内の小学校4年生(ただし、学校の状況により5年生以上、学校の希望により、中学校の生徒を対象に実施できる。加えて、連携中核都市圏の小・中学校も受入れ可能。)を対象として、こども未来館の施設を利用した体験的な学習活動を通して、子どもたちの想像力と探究心を育むことで、健やかな成長に資することを目的に実施します。	こども未来館学習実施学校数/延べ人数	平成28年度 21校/1,737人 (平成29年度 54校/4,558人)	こども未来館学習運営委員会やこども未来館学習事前研修会において、学習の課題を検討して、学習内容の充実を図りながら実施する。	継続	こども未来館	人権啓発課(平和記念館)中央図書館(夢みらい図書館)	こども未来館学習の実施	
12	夢みらい図書館	子ども向けの本を充実させるとともに、おはなし会や読み聞かせ、多様なイベント等を開催するなど、子どもに重点を置いた、子どもも大人も楽しく本に親しむことができる場を提供しています。	子ども対象イベント参加者数	平成28年度 496人	子ども向けの本を、より一層充実させるとともに、定例おはなし会を継続実施するほか、今後も、こども未来館ほか関係課とも連携を図りながら、読書に親しめるような多様なイベントを開催し、子どもの読書活動の推進に取り組みます。	継続	中央図書館	こども未来館 平和記念室	・プラネタリウム(こども未来館)で星空おはなし会を行うなど、連携して事業を実施 ・科学展示室(こども未来館)などに関係図書を配置 ・閲覧室に、こども未来館、平和記念室関係の図書を分かりやすく配置	

No	主な取組事業名	事業概要	実施実績	実施実績 (第2次ビジョン掲載値)	平成31(2019)年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統 合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容	
1	AJI PROJECT	地元の石材事業者の加工技術を活用して、暮らしに寄り添う庵治石商品の開発・販路開拓に取り組みます。 石材産地である強みを生かし、地域資源である「庵治石」を素材として、消費者の日常生活に「付加価値」を与える新商品の開発に取り組み、石材産地としてのブランドの再構築を行うことで、地場産業の振興を図ります。	出荷点数	平成25年度 約500点 平成26年度 約600点 平成27年度 約1,500点 平成28年度 約1,800点 (平成29年度 約2,200点)	伝統工芸の現代生活への応用・転換事業として、商品の改良、新たな商品開発を実施するほか、国内外の販路開拓をすすめて、ブランド力を高め新たな企業化展開に繋げることを目指す。	改善継続	—	高松市牟礼庵治商工会			
2	むれ源平石あかりロード	地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として始めた事業で、市としては、源平屋島地域活性化事業を通して、後援しています。 「庵治石のあかり」を道路沿いに配置して、源平史跡を巡るイベントで、庵治石とデザイン、史跡を融合した産業観光視点のイベントとして開催、期間中の毎週土曜日に限定したライブ等の多彩なイベントを始め、企画展示や観覧参加者が審査するコンテストの実施など、毎年、県内外から多数の参加者を集める事業として注目されています。	来場者数	平成25年度 75,000人 平成26年度 52,000人 平成27年度 75,000人 平成28年度 80,000人 平成29年度 75,000人	引き続き、地元庵治石の普及振興を始め、地域の賑わいづくりを目的として、「庵治石のあかり」を道路沿いに配置し、源平史跡を巡るイベントを行う。	継続	観光交流課	むれ源平石あかりロード実行委員会			
3	盆人プロジェクト	盆栽のキャラクター「盆人」をシンボルに、香川県の盆栽を日本全国のみならず世界へ広めるため活動。地元香川県出身のデザイナー・カメラマン・映像クリエイター・モデル事務所などのさまざまなメンバーで構成。			「世界盆栽プロジェクト」として、平成31年4月頃に高松市特産の松盆栽を世界中にPRするショートムービーを制作予定。 また、2020年東京オリンピック・パラリンピックや瀬戸内国際芸術祭2019に向けた活動を検討している。	拡充	—	盆人プロジェクト			
4	漆芸研究所修了作品貸出事業	香川に関係のある県内外の民間企業・団体に対し、漆芸研究所が保有する優れた修了作品を一定期間無償で貸し出し、香川漆芸作品に触れる機会を創出する。	貸出点数/貸出先数	平成28年度 27点/16か所 (平成29年度 39点/18か所) (平成30年度 39点/18か所)	作品を企業や団体に貸し出し、一目に触れる所に置いてもらうことで、今まで香川漆芸に興味を持たなかった人の目にも触れる機会を作り、香川漆芸を知ってもらうきっかけとする。 また、応接室や窓口等に実際に置いてもらうことで、香川漆芸作品をアート作品として認知してもらい、アート作品としての購入を促進する。	継続	産業振興課	ZOKOKU BRAND推進委員会 (香川県文化芸術局文化振興課)	文化芸術振興課	香川県文化芸術局文化振興課主催のZOKOKU BRAND推進委員会へ出席	
5	高松盆栽振興事業	平成28年度から高松盆栽の普及及び生産拡大の推進を図るために各種事業を実施します。 ○高松盆栽PR事業 盆栽大会への出展など、高松盆栽のPRを実施 ○盆栽産地振興事業 盆栽産地の振興を図るため、産地の活動を支援 ○盆栽輸出振興事業 盆栽の輸出の拡大を図るため、海外盆栽バイヤーとの商談会の開催及び輸出体制の整備を支援		【平成28年度】 ○高松盆栽のPRグッズ等を作成 ○海外盆栽バイヤーとの商談会を実施 【平成29年度】 ○平成29年4月にさいたま市で開催された世界盆栽大会に出展し、高松盆栽のPRを実施	平成28年度 2回(バイヤーの出身国:ベルギー、ドイツ)	高松盆栽の振興を図るため、高松盆栽のPR・輸出振興を支援するとともに、産地の活動を取組みを支援する。	継続	農林水産課	香川県盆栽生産振興協議会ほか		
6	高松盆栽の郷推進事業	平成29年度に策定した「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、盆栽産地(鬼無・国分寺地区)の伝統的な盆栽文化の一層の普及・定着による「高松盆栽の郷」の産地そのもののブランド化を図るため、4つの基本方針に基づき香川県と連携しながら総合的な産地振興に取り組んでいます。 ○国内需要の拡大 新たな需要創出に向けた取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・PR活動 ○輸出の拡大 輸出量増加のための取組、輸出基盤の強化や販路拡大への取組、盆栽の文化や魅力を伝えるための情報発信・PR活動 ○産地基盤の強化 盆栽後継者の育成のための取組、生産・販売の基盤強化のための取組 ○高松盆栽の郷づくり 「高松盆栽の郷」基本構想に基づくツーリズム等の取組、「高松盆栽の郷」の核となる拠点施設の整備		【平成29年度】 「高松盆栽の郷」基本構想策定		「高松盆栽の郷」基本構想に基づき、 ①国内需要の拡大、②輸出の拡大、 ③産地基盤の強化、④高松盆栽の郷づくりを推進するために各種事業を実施する。 2019年度については、「高松盆栽の郷」の核となる拠点施設及び研修施設の整備を支援する。	改善継続	農林水産課	香川県盆栽生産振興協議会ほか	観光交流課	高松盆栽のPRについて、観光交流課と連携して推進する。
7	ZOKOKU BRAND推進事業 (漆芸アート魅力再発見事業)	優れた技法をもつ香川漆芸の認知度向上と若手漆芸作家支援のため、若手作家の漆芸美術展や、有カギャラリー等の招聘を行い、香川漆芸の魅力発信とともにブランド化・販路開拓の足がかりとなる事業を実施する。			香川漆芸の技法を用いた装飾を施した製品を制作してハイブランド誌上で情報発信を行うほか、国内最大級の国際的なアートフェア東京に出品し、香川漆芸のPRを行う。	継続	産業振興課	ZOKOKU BRAND推進委員会 (香川県文化芸術局文化振興課)	文化芸術振興課	香川県文化芸術局文化振興課主催のZOKOKU BRAND推進委員会へ出席	

No	主な取組事業名	事業概要	実施実績	実施実績 (第2次ビジョン掲載値)	平成31(2019)年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統 合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
8	伝統的ものづくり学校巡回教室	市内小・中学校へ伝統工芸の職人を派遣し、ワークショップ等を開催することで、高松の歴史を伴う伝統工芸に関する理解や関心を深めるとともに、情操教育の一助に寄与します。	参加者数/回数	平成26年度 404人/14回 平成27年度 360人/14回 平成28年度 280人/6回 平成29年度 138人/4回 (平成30年度 299人/3回)	伝統的ものづくりの職人を希望のあった小・中学校へ派遣し、話を聞いたり、作品や作業風景を見たりする場を設ける。次代を担う子どもたちの自分自身の住んでいるまちに対する「誇り」や「愛着心」を醸成させることができるような事業となるよう、継続して実施する。	継続	産業振興課			
9	伝統的ものづくり親子体験教室	夏休み期間中に小学生親子を対象として、伝統工芸品の制作体験を実施し、地域資源である伝統工芸について理解と関心を深めます。	参加者数/回数	平成26年度 111人/4回 平成27年度 242人/10回 平成28年度 294人/10回 平成29年度 230人/8回 (平成30年度 300人/12回)	伝統的ものづくりへの理解とともに、内外へ発信出来る人を増加させることが出来るよう、継続して実施する。	継続	産業振興課			

No	主な取組事業名	事業概要	実施実績	実施実績 (第2次ビジョン掲載値)	平成31(2019)年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
1	人・農地プラン推進事業	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・実行により、農地集積・集約化や新規就農・経営継承を促し、農業の体質強化を図ります。 また、国の事業等を活用し、新規就農者等の担い手の定着による地域農業の活性化を図ります。	人・農地プランの作成地区数	平成25年度 30地区 平成26年度 31地区 平成27年度 32地区 平成28年度 32地区 (平成29年度 32地区)	地域での話し合いに基づく「人・農地プラン」の作成・実行により、農地集積・集約化や新規就農・経営継承を促し、農業の体質強化を図る。 また、国の事業等を活用し、新規就農者等の担い手の定着による地域農業の活性化を図る。	継続	農林水産課			
2	アスパラ大騒ぎ	地域で生産されるアスパラガスを核に、食や芸術を通して、地産地消の価値や地域活性化等、多様な価値を創出、共感できる事業として取り組みます。	来場者	【来場者数】 平成25年度 カウントなし 平成26年度 カウントなし 平成27年度 カウントなし 平成28年度 約2,700人 平成29年度 約5,700人 (平成30年度 約8,800人)	地域のイベントとして一定の認知度が上がり、来場者数も増加している。来場者、出店者、会場の三者の一体感を意識しながら、会場の定着化に努め、事業の安定化を図る。	継続	—	アスパラ大騒ぎ実行委員会		
3	さぬきうまいもんプロジェクト	【さぬきダイニング】 地元食材を使用した幅広い料理を提供するとともに、観光客にも自信をもって勧められる、情報発信力の高いレストランを認定し、メニュー開発やフェア・ワークショップを通じて地元食材等の認知度向上に取り組みます。 【さぬきマルシェinサンポート】 瀬戸内の景観が一望できるサンポート高松において、対面により、生産者がこだわりの野菜や旬の果物、加工食品を販売するほか、地元シェフが県産食材を使った飲食を提供する欧風産直市を開催し、県産食材の認知度の向上とサンポート高松の賑わいづくりを図ります。	さぬきダイニング認定店舗数(各年度末現在)	平成28年度 18店舗/(県内では27店舗) 平成29年度 21店舗/(県内では30店舗)	認定店において、メニュー開発やフェア、ワークショップを通じて、県産食材や香川県の認知度向上に取り組む。	継続	—	香川県、さぬきうまいもんプロジェクト実行委員会	観光交流課	会議への出席
			さぬきマルシェinサンポート開催回数	平成25年度 32回 平成26年度 38回 平成27年度 33回 平成28年度 41回 (平成29年度 26回)	引き続き、地域の食の素晴らしさをPRするマルシェを実施し、県産食材の認知度向上の取り組み。	継続				
4	たかまつ市場フェスタ事業	高松市民の台所としての卸売市場の役割や流通の仕組みを広く市民に周知・啓発するとともに、生鮮食料品等の流通の円滑化と消費拡大を図るため、市民と卸売市場との交流の機会を確保しています。	来場者数	平成25年度 17,000人 平成26年度 17,500人 平成27年度 18,000人 平成28年度 18,500人 (平成29年度 19,000人)	来場者アンケートでは高評価を得ており、また、来場者数も伸びているため、現状を維持しながら、更なるPRに努めて来場者数を増やしていきたい。	継続	市場業務課			
5	市場特別開放事業	普段は、許可を受けた人しか入場できない卸売市場で、お買い物をしていただくことにより、高松市民の台所としての卸売市場の役割を知っていただくとともに、市民に親しまれ、市民に開かれた市場づくりを推進しています。	実施回数/来場者数	平成25年度 5回/6,900人 平成26年度 5回/5,800人 平成27年度 5回/5,000人 平成28年度 5回/5,200人 (平成29年度 5回/5,100人)	来場者数に伸び悩んでいるもののリピーター率が高く、問い合わせも多い。高松市民や近隣の市町民の方々には、ある程度認知されているようだ。最近では、県外からの旅行者の問い合わせが多くなっているため、現状を維持しつつ、「もっとたかまつ」等を通じて、県外からの旅行者にもPRしていきたい。	継続	市場業務課			
6	高松ブランド農産物育成支援事業	消費者との地産地消を基本とした共生型農業を推進するため、市内で生産された新鮮で良質な農産物や加工品を「高松産ごじまん品」として市民に提供するとともに、情報発信や農業体験教室、料理教室等の開催を通じて市内農産物の需要拡大と市民の健康で豊かな食生活の実現を図ります。 今後も、食育・地産地消の推進、農産物のブランド化を推進するため、継続して事業を行います。	高松産ごじまん品関連イベント ・ たかまつ食と農のフェスタ ・ おにぎり教室(保育園・幼稚園を対象) ・ 野菜塾 ・ 料理教室 ・ 農産物のPR(試食・販売等) など	平成25年度 46回 平成26年度 49回 平成27年度 46回 平成28年度 47回 (平成29年度 36回)	高松市農産物ごじまん品推進協議会と連携し、農産物のPR、地産地消・食育、及び6次産業化・農商工連携の推進を図る。	継続	農林水産課	【たかまつ食と農のフェスタ】 たかまつ食と農のフェスタ実行委員会		
7	市場DE自由研究事業	小学生及びその保護者を対象に、市場の流通の仕組みや機能を、夏休みにおける自由研究の題材として提供することにより、市場の役割等の知識を深めます。 今後は、市場をより身近に感じていただけるような事業展開とともに、引き続き、市場流通の拡大につながるよう地産地消の題材も取り入れていきます。	実施回数/参加者数	平成25年度 6回/226人 平成26年度 6回/218人 平成27年度 6回/202人 平成28年度 6回/194人 平成29年度 6回/180人	親子2人1組での応募で、各回15組30人を募集しているが、毎回抽選となっている。リピーター率が高く、口コミでの応募が増えている。体験型見学と講義を行っているため、参加者からは、自由研究が完成すると高評価を得ている。現状を維持しつつ、PRにも努めたい。	継続	市場業務課			

No	主な取組事業名	事業概要	実施実績	実施実績(第2次ビジョン掲載値)	平成31(2019)年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
1	高松城跡等整備事業	城下町高松のシンボルとなる特徴的な城郭を後世まで守り伝えるため、史跡高松城跡保存整備基本計画に基づき、石垣や披露間など各施設の保存修理や桜御門の復元に努める。また、天守の復元に向けて資料調査を行う。	玉藻公園入園者数	平成25年度 178,776人 平成26年度 194,026人 平成27年度 218,264人 平成28年度 238,146人 平成29年度 228,385人	史跡高松城跡保存活用計画の作成に着手する。また、桜御門復元整備工事を実施するとともに、披露間の耐震診断の実施及び蘇鉄の間の耐震補強工事の実施設計を作成する。	継続	文化財課	観光交流課	整備した史跡(高松城跡(玉藻公園))の活用を観光振興事業として実施	
2	高松城跡(玉藻公園)をいかした観光振興事業	重要文化財の指定を受けた披露間を中心とし、高松城跡(玉藻公園)の観光拠点としての知名度向上及び観光客の増加を図るため、バーチャル高松城の活用や和船体験事業等の事業を行うとともに庭園のライトアップ等、ナイト観光を充実させるイベントを実施。	入園者数	平成25年度玉藻公園入園者数 178,807人 平成26年度玉藻公園入園者数 194,016人 平成27年度玉藻公園入園者数 218,258人 平成28年度玉藻公園入園者数 237,946人 平成29年度玉藻公園入園者数 228,385人	高松城鉄砲隊演武、バーチャル高松城、和船体験事業を継続実施するとともに、宿泊客に高松の夜を楽しんでいただくナイト観光イベントを展開し、観光拠点としての知名度アップと観光客の増加を図る。	継続	観光交流課			
3	屋島山上拠点施設整備事業	屋島の多様な特性・価値を深く知るための機会を提供し、より多くの人に愛着を持ってもらうため、屋島山上に誰もが気軽に立ち寄り、屋島の歴史、文化、自然環境等について学び、交流することができる拠点施設を整備します。	屋島入込客数	平成25年度 455,771人 平成26年度 511,577人 平成27年度 504,399人 平成28年度 506,682人 平成29年度 498,696人	屋島山上拠点施設(仮称)建設工事着手予定	継続	観光交流課			
4	屋島活性化推進事業	屋島の活性化に向け、屋島の有する特性・価値を将来にわたり継承しつつ、市民を始め、屋島を訪れる人々に広く知ってもらうため、「屋島活性化基本構想」に基づく事業を実施し、屋島を世界に誇れる本市のシンボルとして再生します。 この事業の一つとして、山上を訪れる人々に屋島を知ってもらうため、人が集まり、学び、楽しみ、交流できる拠点となる屋島山上拠点施設を整備します。 また、屋島ドライブウェイの無料化・市道化により、屋島に気軽に訪れることのできる環境づくりが図られていることから、より一層屋島山上への誘客を推進していきます。 さらに、屋嶋城跡城門遺構を整備するとともに平成28年3月に一般公開を開始し、屋島の歴史の掘りおこしと情報発信を行っています。 平成29年に完成した屋島レクザムフィールドについては、四国大会等の陸上競技大会が開催可能であり、棒高跳の公認競技が可能な室内競技場を全国で初めて併設しています。	屋島入込客数	平成25年度 455,771人 平成26年度 511,577人 平成27年度 504,399人 平成28年度 506,682人 平成29年度 498,696人	引き続き、源平屋島地域運営協議会において、源平屋島地域のまつり・各種イベントを共同宣伝することにより、源平屋島地域全体の活性化にぎわいの創出、誘客に努める。また、バス運行事業者による屋島山上シャトルバス運行事業への補助を行い、源平屋島地域への観光客の誘致を図るとともに、新たなアクセス手段の検討や屋島周辺の観光施設への周遊を促す取組みを行いながら、屋島に対する関心を広く醸成する。	継続	観光交流課			
5	屋島山上ライブイベント～天空ミュージック～	「食」と「音楽」による屋島山上への誘客を目的とし、「屋島夜景フェスタ」の開催期間中のいずれかの金・土曜日に、屋島山上において、著名なミュージシャン等による音楽ライブを実施する。	来場者数	平成25年度 1,650人 平成26年度 1,450人 平成27年度 1,110人 平成28年度 1,020人 平成29年度 1,280人	引き続き、「食」と「音楽」による屋島山上への誘客を目的とし、屋島山上において、著名なミュージシャン等による音楽ライブを実施する。	継続	観光交流課			
6	温泉をいかした塩江地域の観光振興事業	観光客のニーズや嗜好、競争環境の変化等に的確に対応し、地域の持つ魅力を向上させて塩江地域の活性化を図るため、塩江温泉郷観光活性化基本構想に基づき、温泉をいかした塩江地域の観光振興に努めます。	塩江温泉郷観光入込客数	平成25年度 59,392人 平成26年度 64,785人 平成27年度 68,150人 平成28年度 69,039人 平成29年度 70,010人	塩江温泉郷観光活性化基本構想に事業の推進 道の駅エリア再整備の検討 奥の湯エリア再整備基本設計	拡充	観光交流課			
7	グリーン・ツーリズム推進事業	市内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、グリーン・ツーリズム実践者の活動を支援する。			市内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、グリーン・ツーリズム実践者の活動を支援する。(H31予算なし)	継続	農林水産課			
8	誘客促進事業	本市への誘客を促進するため、香川県と連携し、高松空港への直行便が就航している台北、上海、ソウル、香港及び成田を対象に観光キャンペーンなどを実施するほか、多言語対応可能な観光案内所の運営や、クルーズ客船の受入事業を行う。 また、広島市、松山市、岡山市及び本市の4市で構成する「瀬戸内4県都市長会」で観光客誘致事業を実施するとともに、(公財)高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組む。	観光案内所利用者数(外国人)／観光関連施設等利用者数	平成25年度 -人／6,315千人 平成26年度 -人／6,509千人 平成27年度 -人／6,655千人 平成28年度 18,597人／6,934千人 平成29年度 18,313人／6,816千人	県と連携し、高松空港国際定期路線航先や国内線(成田線)を中心に、観光キャンペーンの実施等の誘客活動を実施する。また、外国人観光客の利便性向上のため、常時多言語対応可能な観光案内所の運営を行うほか、クルーズ客船等の誘致・受入事業を行う。 瀬戸内4県都市長会では、4市を巡る広域周遊旅行の提案や誘客促進に向けたプロジェクト等を行う。 (公財)高松観光コンベンション・ビューローを通じて、国内外からの観光客の本市での滞在の促進に取り組む。	継続	観光交流課			
9	観光客受入環境整備事業	観光客等の満足度向上を図るため、無線LAN等の環境整備や観光案内板を整備して情報提供を行うほか、産学官が連携して外国人観光客の受入環境の整備事業に取り組む。	市内の主な観光施設等利用者数	平成25年度 6,315千人 平成26年度 6,509千人 平成27年度 6,655千人 平成28年度 6,934千人 平成29年度 6,816千人	デジタルサイネージの運用及び公衆無線LAN環境整備については、2019年度以降も継続して実施していく。また、今後の観光政策に、両事業から得られるデータをどのように活用していくかを検討する。 外国人受入環境整備事業については、平成30年度中に外国人観光客に対応する学生ガイド団体を設立し、2019年度以降、本格的に活動をする。	継続	観光交流課			
10	さぬき高松まつり	四国の四大祭りの一つとして、また、讃岐路の真夏の夜を彩る祭典として、市民をはじめ多くの観光客にも親しまれており、「ものっそ高松」を合言葉に、「瀬戸の都・高松」にふさわしい一大イベントとして、中央公園・中央通り・サンポート高松をメイン会場に、盛大に開催する。	入込客数	平成25年度 650,000人 平成26年度 620,000人 平成27年度 650,000人 平成28年度 620,000人 平成29年度 610,000人	8月12日～14日にかけて、中央公園において、さぬき高松まつり「お祭り広場」を開催する。また、8月13日には、サンポート高松において、花火大会を実施し、14日には中央通りを中心に総おどりを行う。	継続	観光交流課			
11	高松秋のまつり・仏生山大名行列	高松の四季を表すまつりの一つとして、市民をはじめ、多くの観光客にも親しまれるまつりを目指すとともに、中心会場となる高松南部地域の活性化に寄与する。	入込客数	平成25年度 130,000人 平成26年度 150,000人 平成27年度 145,000人 平成28年度 145,000人 平成29年度 117,000人	高松市立仏生山公園や仏生山商店街を会場に、野外劇場やよるす処、黒門市等さまざまな催しを行う。	継続	観光交流課			
12	文化財保存活用推進事業	市内指定等文化財の適切な保存を行うとともに、市民に公開する良好な環境を提供する。			引き続き、市内指定等文化財の適切な保存を行うとともに、市民に公開する良好な環境を提供する。	継続	文化財課			

No	主な取組事業名	事業概要	実施実績	実施実績(第2次ビジョン掲載値)	平成31(2019)年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
13	瀬戸内国際芸術祭2019	文化芸術の振興と、瀬戸内の活性化や地域振興を、世界に向けての情報発信に寄与するため、現代アートの作家や建築家と協働する国際的な芸術祭と位置付けて、香川県・関係市町及び福武財団などとともに開催する瀬戸内国際芸術祭を推進していきます。 瀬戸内国際芸術祭2016においては、これまでも増して充実したアート作品やイベントが加わり、外国人来場者の割合が前回よりも8ポイント以上増加しました。今後も市独自の関連事業を積極的に実施し、内陸部への観光客の誘客も図り、本市の活性化につなげていきます。	トータル来場者/外国人の割合(アンケート調査)/経済波及効果	2010年 938,246人/1.1%/一億円 2013年 1,070,368人/2.6%/132億円 2016年 1,040,050人/13.4%/139億円	香川県・関係市町及び福武財団などとともに、瀬戸内国際芸術祭2019を開催する。 (シーズンテーマ) 春会期 4/26～5/26 ふれあう春 夏会期 7/19～8/25 あつまる夏 秋会期 9/28～11/4 ひろがる秋 (計107日間) 高松市内における会場は、高松港周辺、男木島、女木島、大島	継続	文化芸術振興課	瀬戸内国際芸術祭実行委員会		
14	高松国際ピアノコンクール	音楽芸術の振興と国際的な文化交流を図ることに、地域に根ざした文化芸術の創造と振興に寄与することを目的として、民間主導により行われる国際的なピアノコンクールの開催を支援します。 第3回高松国際ピアノコンクール(平成25年度開催)の翌年度からは、同コンクール組織委員会の実施事業以外に、本市と組織委員会が連携した取組として、学校訪問リサイタル※、コンクール審査員による演奏会や公開レッスンを実施し、今後は、平成30年の第4回開催を契機に本市の音楽文化の交流の場を広げるとともに、その発展を目指していきます。	大会参加人数/観客数	平成18年 306人/11,250人 平成22年 243人/7,550人 平成26年 239人/7,180人 (平成29年 332人 / 10,230人)	推進事業として、30年度同様のメニューを実施予定 ①審査員、優勝者の演奏会 ②審査員、優勝者によるマスタークラス(公開レッスン) ③学校訪問リサイタル ④子どもたちとファイナリストの演奏会	継続	文化芸術振興課	高松国際ピアノコンクール組織委員会		
15	かがわ山なみ芸術祭	芸術を軸とした地域の活性化を図るため、県内在住のアーティストと国内外の優れたアーティストが連携し、現代美術作品の展示やワークショップを実施します。地域の歴史文化や風土を作品制作における重要なテーマとし、ここでしか見ることができないアートイベントを目指します。	来場者数	2016 ■会期 第1期 4月29日(金)～5月22日(日) 第2期 9月17日(土)～10月9日(日) 第3期 10月29日(土)～11月13日(日) ■会場(高松市エリア) 塩江美術館、西小・塩江小・温泉通りを中心とした塩江町内を会場とし、ことでん瓦町駅ビルでイベントを実施。 ■来場者数(高松市エリア) 瓦町FLAG(イベント) 700人 塩江町 2,826人	瀬戸内国際芸術祭2019の秋会期に合わせ、かがわ・山なみ芸術祭を開催する。高松市内における会場は、塩江町(塩江美術館等)を予定している。	継続	文化芸術振興課	かがわ・山なみ芸術祭実行委員会		
16	高松まちかど漫遊帖	本実行委員会において、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」を春と秋の2回計画し、4月頃～6月頃までの期間において春編を、10月頃～12月頃までの期間において秋編を毎年開催している。	参加者数	【開催回数/延べコース数/延べ参加者数】 平成25年度 2回/44コース/476人 平成26年度 2回/33コース/385人 平成27年度 2回/47コース/562人 平成28年度 2回/47コース/455人 平成29年度 2回/48コース/469人	これまでと同様に、高松市・高松市周辺で、市民が主体的に歴史・観光・産業のまちづくりや商品づくりに資することを目的として、ガイドブック「高松まちかど漫遊帖」の制作・運営を中心とした、まちあるき事業等の各種事業を行う。	継続	観光交流課			
17	まちなかパフォーマンス事業	市民の文化芸術への関心を高めるとともに、まちかどに芸術のあふれる「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、サポート高松や商店街等で、アートに関連した各種イベントを実施します。 今後は、音楽やパフォーマンス等を通して、市民や観光客が、中心市街地において文化芸術を気軽に楽しめる空間づくりを推進します。	【TAKAMATSU MUSIC BLUE FES】観客数 (平成25年、26年は街角に音楽をフェスティバル)	平成25年度 6,850人 平成26年度 7,610人 平成27年度 20,200人 平成28年度 26,370人 平成29年度 26,370人	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。瀬戸内国際芸術祭2019の開催に合わせ、例年より内容を拡充して実施予定。	継続	文化芸術振興課			
			【サンポートオータムジャム】観客数 (平成25年度、26年度はワールドダンスフェスティバル)	平成25年度 3,100人 平成26年度 650人 平成27年度 3,800人 平成28年度 1,500人 平成29年度 1,600人	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課			
			【高松フラストリート】観客数	平成25年度 6,800人 平成26年度 7,800人 平成27年度 8,600人 平成28年度 9,500人 平成29年度 10,500人	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課			
			【街クラシックin高松】観客数	平成25年度 6,470人 平成26年度 1,630人 平成27年度 3,300人 平成28年度 1,670人 平成29年度 1,020人	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。	継続	文化芸術振興課			
			【たかまつ大道芸フェスタ】観客数	平成25年度 27,600人 平成26年度 38,000人 平成27年度 46,600人 平成28年度 54,500人 平成29年度 62,250人	引き続き、「アート・シティ高松」の実現と中心市街地の賑わいを創出するため、各イベントを継続実施する。瀬戸内国際芸術祭2019の開催に合わせ、例年より内容を拡充して実施予定。	継続	文化芸術振興課			
18	SETOUCHI SUMMER NIGHT FESTIVAL	「アート・香川」としてのイメージを定着させるとともに、交流人口の拡大を目的として、瀬戸内海を臨むウォーターフロントの特性を生かし、アート色豊かなイベントを開催する	来場者数	平成26年度 35,000人 平成27年度 52,000人 平成28年度 20,300人 平成29年度 31,250人	瀬戸内国際芸術祭夏会期に合わせ、例年以上に魅力ある食ブースや「真夏の夜の夢」ステージを展開する。	継続	観光交流課			
19	創造支援センター運営事業	本市における特色ある事業の創出及び地域産業の振興に寄与するため、四番丁スクエア内に、創造性に富む発想や独自性のある技術を活用した新規事業者等の活動拠点としてのインキュベーター施設(全6部屋)を設置・運営している。			継続して事業を実施する。	継続	産業振興課			
20	高松市美術館サポートショップ事業	会期中の特別展チケットの半券、又は有効期間中の定期観覧券(年間パスポート)を提示すると、参加店舗で割引などの特典を受けることができます。また、各サポートショップに「高松市美術館サポートショップ利用者割引券」を設置し、サポートショップ利用のお客様がその割引券を美術館に持参すると特別展観覧料が割引になる相互割引制度を導入し、商店街周辺のにぎわいづくりにつなげていきます。	【参加店舗数】	24年度39店 25年度53店 26年度69店 27年度119店 28年度147店 29年度145店 30年度134店	引き続き、参加していただいている店舗の皆様と協力し、美術館をはじめとして商店街周辺のにぎわいづくりにつなげていく。事業の認知度をあげるため、観光案内所等へのサポートショップマップ配布を行い、展覧会受付で声かけを行う。	継続	美術館美術課			
21	ため池景観整備維持管理事業	ため池景観整備事業等で実施した施設、樹木等の維持管理に関する協定を締結した法人または市長が認める団体に対して補助金を交付し、当該施設等の適正な維持管理を図る	地区数/補助金	平成25年度 17地区/7,697,300円 平成26年度 17地区/7,819,500円 平成27年度 17地区/8,269,600円 平成28年度 17地区/8,135,800円 平成29年度 16地区/7,940,600円 平成30年度 16地区/8,252,500円	引き続き、事業実施に係る支援を行い、当該施設等の適正な維持管理を図る。	継続	土地改良課			

No	主な取組事業名	事業概要	実施実績	実施実績(第2次ビジョン掲載値)	平成31(2019)年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
22	障がい者スポーツ推進事業 【日本パラ陸上競技選手権大会】 【中国・四国パラ陸上競技大会】	障がい者スポーツの推進を図るため、本市スポーツ施設における環境整備や障がい者スポーツ大会の誘致等を通じて、障がい者スポーツ人口の増大と競技力の向上に取り組みます。 【日本パラ陸上競技選手権大会】 平成30年9月に本大会を四国で初めて開催しました。また、新聞・TV等の媒体による事前周知や大会開催に併せ、パラリンピアンと小学生との交流事業等を計画するなど、幅広く市民への周知に努めました。 【中国・四国パラ陸上競技大会】 平成29年4月の屋島レクザムフィールドのオープンに伴い、7月に同会場にて四国で初開催し、今後、平成31年、2020年の2年連続で開催します。 また、大会前日にはパラリンピアンとの交流事業、義足体験授業を実施するほか、大会当日も障がい者スポーツ体験を実施し、障がい者スポーツの推進に努めます。	【日本パラ陸上競技選手権大会】 参加選手数/観客数 【中国・四国パラ陸上競技大会】 大会参加人数	【日本パラ陸上競技選手権大会】 307エントリー/約5,670人 【中国・四国パラ陸上競技大会】 平成29年度112人	6月29日(土) 中国・四国パラ陸上競技大会開催	継続	スポーツ振興課	【日本パラ陸上競技選手権大会】 一般社団法人日本パラ陸上競技連盟 【中国・四国パラ陸上競技大会】 中国・四国パラ陸上競技協会	障がい福祉課 学校教育課 産業振興課 UD推進室 都市交流室	・大会関連イベント実施にかかる連絡調整 ・台湾パラ陸上の交流事業 ユニバーサルデザインの推進
23	スポーツイベント開催事業 【トリムの祭典】 【サンポート高松トライアスロン】	【トリムの祭典】 昭和54年度から、毎年体育の日に中央公園等において、誰もが気軽に挑戦・体験できる市民総参加型のスポーツ・レクリエーションイベントとして開催しています。公園内では、ニュースポーツ体験、健康チェックコーナー、ヨガや太極拳等のステージイベント、御当地キャラとの触れ合いなど、また、公園外では、ウォーキング、サイクリング、ちびっ子鬼ヶ島探検などを実施しています。 【サンポート高松トライアスロン】 サンポートエリアの海と本市中心市街地を会場に、日本全国・世界から幅広い選手たちが参加できる国内屈指の都市型トライアスロン大会「サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～」を共催し、参加者及び市民の心と体の健康づくりを推進するとともに、本市及びサンポート高松のPR等、活力あるまちづくりの促進を図ります。 また、平成29年度からは、オリンピックの選考対象に位置づけられている国際大会「アジアカップ」を同時開催し、市民がトップレベルのスポーツを身近に観戦する機会を提供するとともに、スポーツを通じた国際交流にも取り組んでいます。	【トリムの祭典】 参加者数 【サンポート高松トライアスロン】 参加選手数/ボランティアスタッフ数/観客数	【トリムの祭典】 平成25年度 5,000人 平成26年度 中止 平成27年度 6,000人 平成28年度 6,000人 平成29年度 6,000人 【サンポート高松トライアスロン】 平成25年度 458人/749人/4,500人 平成26年度 514人/676人/12,000人 平成27年度 479人/703人/13,500人 平成28年度 584人/640人/14,800人 平成29年度 687人/1,016人/38,500人	【トリムの祭典】 体育の日(10月14日)に中央公園等において、誰もが気軽に挑戦・体験できる市民総参加型のスポーツ・レクリエーションイベントを開催します。公園内では、ニュースポーツ体験、健康チェックコーナー、ヨガや太極拳等のステージイベント、御当地キャラとの触れ合いなど、また、公園外では、ウォーキング、サイクリング、ちびっ子鬼ヶ島探検などを実施する予定です。 【サンポート高松トライアスロン】 7月6日(土)、7日(日) NTT ASTC トライアスロンアジアカップ(2019/高松) サンポート高松トライアスロン～瀬戸内国際体育祭～	継続	スポーツ振興課	【サンポート高松トライアスロン】 サンポート高松トライアスロン大会 実行委員会	【トリムの祭典】 中央公園における健康チェックコーナー、ミニウォークラリーを担当 【サンポート高松トライアスロン】 本庁舎内各課	【トリムの祭典】 中央公園における健康チェックコーナー、ミニウォークラリーを担当 【サンポート高松トライアスロン】 アジアカップにおけるコース設営等
24	市民活動センター運営事業	市民と行政が共に考え、共に活動する協働の場として設置している市民活動センターを管理運営し、センター事業を実施します。	【市民活動センター】総利用者数	平成25年度 3,180人 平成26年度 3,218人 平成27年度 15,429人 平成28年度 19,752人 平成29年度 23,977人	中間支援組織としての機能を充実し、市民活動団体等への活動の更なる支援強化を図る。センター職員のスキルアップを行うとともに、市民に気持ちよく利用してもらえるよう親しみやすい窓口づくりにも取り組み、相談事業の強化・充実を図る。	継続	男女共同参画・協働推進課			
25	アーティスト・イン・レジデンス事業	(高松アーティスト・イン・レジデンス) 高松市内の活用されていない資源(例えば、空き家、廃校、商店街の空き店舗等)を活用し、国内外から招へいたアーティストが一定期間滞在し、地域とのつながりの中で作品制作を行うことで、地域との協働が生まれ、地域に賑わいをもたらすとともに、アートへの普及や若手アーティスト等の育成にもつなげます。 (大島アーティスト・イン・レジデンス) 県内外の小学生から中学生までの子どもたちが参加し、大島に宿泊するサマーキャンプを実施します。入所者との交流によりハンセン病の歴史を学び、歴史的遺産の伝承に資するとともに、大島の自然、瀬戸内国際芸術祭の作品鑑賞、アーティストによるワークショップ体験を通じ、大島の魅力を伝え、将来にわたる島の振興を図ります。	応募件数・実施事業数	平成27年度 応募17件、実施3件 平成28年度 応募40件、実施3件 平成29年度 応募15件、実施3件	高松アーティスト・イン・レジデンス事業については、瀬戸内国際芸術祭の開催年度を除いて実施する。	継続	文化芸術振興課			
26	障がい者アートリンク事業	芸術活動を通じて障がい者の感性・想像力を育み、障がい者の社会参加の促進を図るため、希望する障害福祉サービス事業所等へ芸術家を派遣し、創造性の芽を持つ障がい者とアーティストが長期継続的に関わることで生まれる新しい概念をカタチにする創作活動を支援します。	派遣先事業所	12か所	引き続き、芸術活動を通じて障がい者の感性・想像力を育み、障がい者の社会参加の促進を図る。	継続	障がい福祉課			
27	MICE推進事業	本市が有するMICE開催に必要な機能の更なる充実や有機的な連携を図ることにより、高松ならではのMICE誘致を展開するため、MICE振興戦略に基づく施策を推進する。	コンベンション開催件数	平成25年度 203件 平成26年度 226件 平成27年度 217件 平成28年度 214件 平成29年度 226件	引き続き、香川県MICE誘致推進協議会及び(公財)高松観光コンベンション・ビューローと連携しながら、MICEの受入態勢の強化や大規模MICEの誘致に取り組む。	継続	観光交流課			
28	魅力にあふれ、人が輝く創造都市推進事業	本市における創造都市の普及・発展を図るため、本市の取組について、市民を始め、国内外に積極的にPRし、本市のブランド力を高めます。	「高松市創造都市推進局フェイスブックページ」いいね!の数	平成26年度 2,726 平成27年度 3,555 平成28年度 4,138 平成29年度 4,388	高松市創造都市推進審議会や高松市創造都市推進懇談会において、本市の活性化に資する御意見をいただきながら、創造都市ネットワーク日本の事業に参加し、本市の取組について積極的にPRする。	継続	産業振興課	政策課(UD推進室、移住・定住促進室) 広聴広報課 障がい福祉課 立地・創業・イノベーション支援室 観光交流課 スポーツ振興課	任意団体upTAKAMATSUの取組への支援	
29	「気持ち高まる、高松。」シティプロモーション事業	高松を知らない層に対して、効果的な情報発信を行うことにより、本市に対するポジティブなイメージの浸透を図り、観光・MICE誘致のみならず、移住・定住促進、シビックプライド醸成などにつなげる。	多言語観光サイトの全面リニューアルを実施し、新たに「Experience Takamatsu」の名前で、高松ならではの魅力的な「体験」に重きを置いた情報発信を5言語(日・英・繁・簡・韓)で行う	平成29年度、全面リニューアルを実施	引き続き、多言語サイト「エクスペリエンス高松」により情報発信を行う。	継続	観光交流課			
30	高松市文化芸術ホール改修事業	高松市文化芸術ホールは平成30年度で開館から14年が経過し、音響・照明・舞台設備等、更新が必要となるとともに、ホールのつり天井は既存不適格建築物として改修等の対応が必要になっています。そのため、更新・改修に係る工法・範囲等の調査検討の上、効率的な更新改修計画に基づき実施設計し、休館期間を設けて全面的に更新・改修を行います。	設備更新・建物改修に係る進捗率	H30.7 工法検討業務委託契約締結 調査業務実施	工法検討業務の結果を受け、真に必要な改修箇所や休館期間を検討しながら改修計画を策定する。	継続	文化芸術振興課			

No	主な取組事業名	事業概要	実施実績	実施実績(第2次ビジョン掲載値)	平成31(2019)年度事業見込	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、統合、完了、休止、廃止)	主管課 (関係部署)	主催者(市主催以外の場合)	関係課	関係課との連携内容
31	高松市文化芸術ホール会館15周年記念事業	高松市文化芸術ホールは、本市の文化芸術の核であるべき施設であり、サンポート地区の賑わい促進に寄与する施設です。当該ホールの役割が重要となる中、15周年記念事業を実施することにより、より多くの市民が集い、楽しめるホールを目指すとともに、教育文化施設、市民文化団体等とも連携し、20周年を見据えた取り組みを図ります。(事業期間H30～31)	開館15周年記念事業の来場者数	公演メニューを決定	開館15周年記念事業として、通常より拡充した各メニューを実施する。	継続	文化芸術振興課			
32	専門職短期大学設置支援事業	地域の活性化を担う人材の輩出や、若者の県外流出の抑制等を図るため、高松市公共施設再編整備計画(1次)案において、有識者等の意見を反映した総合評価で「2022年度末までに売却を含めた廃止を検討する」とされていた高松テルサの跡施設を有効活用し、学校法人穴吹学園が構想する「専門職短期大学」の設置を支援します。			高松テルサ跡施設外壁工事 高松テルサ跡施設賃付	新規	産業振興課		政策課	政策コンテスト、 専門職短期大学設置構想に対する賛同書等
33	東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、事前合宿誘致等に努めるほか、オリンピック・パラリンピアンを招聘しスポーツイベントを実施するなど、機運醸成を図ります。			オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致 オリンピック・パラリンピアン交流事業 強化合宿開催支援事業 聖火リレー開催事業	新規	スポーツ振興課		UD推進室 財政課 障がい福祉課 産業振興課 農林水産課 観光交流課 都市交流室 文化芸術振興課 学校教育課 保健体育課 ICT推進室	・事前合宿誘致に関すること ・ホストタウン・共生社会ホストタウンに関すること ・聖火リレー関連イベント実施に関すること ・その他庁内連絡会の目的を達成するために必要な事項
【完了】	トゥール市姉妹都市提携30周年記念事業	平成30年度にトゥール市(フランス共和国)との姉妹都市提携30周年を迎えることから、国際交流活動をさらに活性化させ、市民の国際感覚の醸成を図るため、記念事業を実施するとともに、民間国際交流団体の事業実施を支援するもの	参加者数	1,345人		完了	観光交流課			
【完了】	スポーツ施設オープニングイベント開催事業	高松市ヨット競技場及び高松市立りんくうスポーツ公園の共用開始に伴い、市民への周知や施設の利用促進を図るため、オープニングイベントを実施します。	オープニングイベント参加者数	平成30年度 約900人		完了	スポーツ振興課			